人一首抄

へ 4
3625

利へ
3625
門
部
巻

藤田氏藏書

宮城縣図書館

ひとせさのつ　さのまくらに廿日の月をまちて　卿の五百ぢせ
あまの五十の秋ぞ　一のひも　五百月のうつのむ　ふたりてあまりて
真木をそ　ふ　一ふとも　花のあるさ　月のゆふ　ふ　ゆ
いわれよ　もり　なさのあうけ　ふ　ふ　ひとふ　ふ　ふ　ふ
おふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

大正五年寄贈
宮井平藏氏

藤原美波留

▲三十六人撰

・此ハ大納言公任卿の撰ラレタル歌ノ一ツヒトツ歌ノ下ニハ後拾遺和歌集の序ニ云ク大納言公任卿ノ撰ビ給ヘル歌人ヲ抜キ出デテ歌ノ上ニハ人麿ヲ上ニ置キ下ニハ貫之ヲ置キ中ニハ其ノ他ノ人ヲ置キ侍リシトカヤ

・家隆・雅経ノ二ツハ新古今集ニ入ル歌ナリ

・又俊成卿ノ歌ハ千載集ニ入ル歌ナリ

・柿本人麿ハ万葉集ニ歌ノ上ニ人麿ノ名ヲ置キ侍リシトカヤ

・歌仙ノ中ニ山ノ下ニ泉ヲ掘リ侍リシ万葉集十七巻云大伴宿禰池主三月五日蕊宇大伴宿禰家持書曰不遺下賤復恵徳音英雲星氣逸調過人山柿詞泉比此如蔑雕龍筆海粲然得看笑者知僕久直事也歌云

・古今集序云有山邊赤人者歌仙也云

・家ノ歌ハ讀ル常論又義ノ如ク讀ル常論ノ歌ハ

・万葉集ノ歌ハ

・紙ノ年中ノ

▲百人一首抄

・此百首ハ京極中納言定家卿の筆ニ東ノ方ノ人ノ歌ヲ宗旨法師ノ歌ヲ撰ビ給ヘル歌ハ新古今集ハ・通具・有家・定家・家隆・雅経ノ歌ヲ撰ビ給ヘル歌ハ定家ハ又俊成卿ノ歌ヲ撰ビ給ヘル歌ハ千載集ニ入ル歌ナリ

・建仁元年三月廿六日可撰和歌集之由宣下　建仁二年　建仁三年四月新古今撰進同六月

・以後五人所進歌被讀加之其沙汰経年序　元久元年十一月三十日俊成卿薨　元久二年四月新古今竟　建永元年　承元元年　承元二年　承元三年六月新古今可施行之由宣下被仰下施行

・花実ノ中ニ定家卿ノ歌ハ

・明月記云定家卿ノ室ノ文暦二年云平不知書文字事嵯峨中院入道ハ宇都宮弥三郎入道ノ為家卿ノ室ノ又ハ障子色紙形故予可書由入道懇切懇深筆送之古来歌自天智天皇至家隆雅経卿入夜金吾為家示送云云

・

柿本人麿呂

あしびきの
やまどりの
をののしだり
ながながし
よをひとりかも
ねむ

▲古今集序ニ云ク歌ノ様ヲ知ラ人ノ為ニ人麿ノ歌ハ

・万葉集ノ歌ハ

・万葉集論云

・万葉集ノ歌ハ

・万葉ノ思念ノ字ヲ

天智天皇

秋の田の
かりほの
いほの
とまを
あらみ
わが
ころもは
つゆに
ぬれつつ

▲後撰集秋下

・

・万葉十訓露　作者不知

秋田刈借庵手作吾居者衣寒露置尓家流

・天智天皇・大御父ハ舒明天皇大御母ハ宝皇女・御諡ハ天命開別天皇・近江大津宮・陵山科鏡山

紀貫之　右

▲拾遺集春　朝子院天皇の歌なり

・朝子院ハ拾芥抄五七條坊門北西洞院西二丁云々

・宇多天皇御諱定省寛平九年御讓位あり朝子院と号せらるし陰陽道あり寛平法皇とも申す

・彼の人はさくらの花を見るとて

春のうちに咲くはさくらの花なれど
散りてさまでの数なりけるかな

古今春下　ぞうそう法師

さくらちるこのしたかぜはさむからで
降りつもれるはなのなりけり

持統天皇

▲万葉集一　藤原宮御宇天皇御代天皇御製歌

春過而夏来良之白妙能衣乾有天之香来山

・御諱ハ高天原廣野姫天皇・大御母ハ遠智嬢・天武天皇皇后

・大和国藤原宮・陵大和国高市郡大内

凡河内躬恒　左

▲後撰集春上　延喜の御時御屏風の歌

・御屏風ハ天子の御脇をも作る

・御厨子所ハ天子の御膳をも作る

・つくもがみハ秋なり京官の除目なり

・彼の人ハ陽成の日の人なり

・古今著聞集云永二年六月十八日修理大夫彦季朝臣六條洞院の亭にて柿本大夫人麻呂の新供をしたりけり件の人麻呂の新六句は人麻呂の讃をくるしとの事なり

・柿本朝臣六歌事記ニ天押帯日子命後十六氏ニ羽豆さき本の二つ

・姓氏録云敏達天皇御代依家門者柿木謂柿木氏ト父祖不知人

柿本人麻呂

▲万葉集十一　寄物陳思

念友念毛無津足檜木之山鳥尾之永此夜乎足日木之山鳥之尾乃四垂尾乃長永夜乎一鴨宿かあり

・彼の人ハ人麻呂の

伊勢右

▲古今集戀五　仲平の朝臣よあけぬとて
[illegible]
・續万葉論云歌を吾いわ八ゝの山なと
[illegible]
・六帖
[illegible]

山部赤人

▲万葉集三　山部宿祢赤人望不二山作歌并短歌
・田兒浦從打出見者真白衣不盡能高根尓雪者零家流
・續日本紀云延暦四年桓武山部王詔曰避御諱山部為山辺
・父祖不知人

中納言家持　左

▲万葉集十九相聞　已當于人尓令知乍
・淵云歌ハ野
・父大納言從二位藤人卿
・續日本紀三十八延暦四年八月中納言從三位大伴宿祢家持薨云〻

猿丸大夫

▲古今集秋上
・弘法大師
・古今の序に人〻の歌を評して猿丸の歌は
・氏人
・古今集序に道鏡ハ続紀光仁天皇宝亀三年下野国薬師寺に
・俗説云〻

山部赤人　右

▲万葉集六、神亀元年十月五日幸紀伊国時山部宿祢赤人作哥並短歌

・續日本紀、神亀元年冬十月丁亥朔、辛卯天皇聖武幸紀伊國、癸巳行至紀伊国那賀郡玉垣宮、甲午至海部郡玉津嶋勾頻宮、留十有餘日云々

中納言家持

▲新古今集冬

・鳥鵲橋、大内のミハシを天上にいふ、月もあきらかなるのみ、霜降るのまれの白きを、ミそらの文字にかよはせり、淮南子、烏鵲填河成橋以渡織女、唐詩、奉和初春幸大平公主南莊應製、鳳凰樓下交天仗、烏鵲橋頭敞御筵、公主の家なれば大内、大和物語、白髭明神、宇佐の宮、酉の時、星、烏鵲、

・謌話、ちはやぶる天の橋立、

・拾遺、忠岑

安倍仲麻呂

▲古今集羇旅　そらゝ〜にて月をみてよめる

・土佐日記、云、廿日の月いでぬ、山のはもなき海の中、いづくゆ出くる月ぞと、人もながめつ、我もかの国の人、こゝにかくしつゝ、ふるさとの月やこよなくすみのぼるらん、と、ものがたりしつゝ、なかめやすらんと思へば、あかでいりぬる月なれば、こゝにもかくやすらんと、あはれなり、

・新撰姓氏録、孝元天皇太子大彦命の子孫



在原業平朝臣　左

▲古今集春上　潘陸　河内国史野まあり、そこ、ねを

・續万葉論、ゑ、ものの勾、土佐日記、さきぶ、土佐日記を捨てやは、哥日土佐日記、こゝ、但、そう、せばい、ゆ、俗語、こと、業平は、紀、ものべ、

・新古今集春上、潘陸、河内国史野まあり、そこ、ねを

・續万葉論、ゑ、ものの勾、土佐日記、さきぶ、土佐日記を捨てやは、哥日土佐日記、こゝ、但、そう、せばい、ゆ、俗語、こと、業平は、紀、ものべ、

・新撰姓氏録、孝元天皇太子大彦命の子孫

僧正遍昭　右

▲後撰集雑三　もゝぞゝ　詞書略　かしら

▲家集小つゝ　深草大将　仁明

▲古今集　巻一　ちはや

▲古今集春上　巻一　ちはや

▲古今集春下　巻一　ちはや

▲古今集　巻一　ちはや

▲古今集春上　花のさかりに

▲古今集春下　巻一　ちはや

紀友則　右

▲拾遺集冬

・[illegible]

蟬丸　左

▲後撰集雜一　あ少将の[illegible]

・[illegible]

・美濃国[illegible]

・父祖不知人

蟬丸大夫　左

▲古今集春上

・續万葉論云[illegible]

・東野州傳切紙云[illegible]

・同記小六年春正月遂以[illegible]

・文徳實録云[illegible]

・文徳實録云[illegible]

・同記云[illegible]

・[illegible]

・[illegible]

・文徳實録云[illegible]

・文徳實録云[illegible]

・文徳實録云[illegible]

・[illegible]

・[illegible]

・

小野小町　右

▲古今集雑下　文屋康秀

・五節ハ毎年十一月中ノ廿日ヨリ四日ノ間ニ行ル。

僧正遍昭

▲古今集雑上　良岑宗貞

・五節ハ毎年十一月中ノ廿日ヨリ四日ノ間ニ行ル。

中納言兼輔　左

▲後撰集恋　友の君ふうやぶう

・日本記略云延暦三年四月二日入道三品綏子内親王薨

陽成院

▲後撰集意三　つぐのこふ

・日本記略云延暦三年四月二日入道三品綏子内親王薨

中納言朝忠　右

▲拾遺集意一　天暦の御時歌合よ

・けふ至人一首ゆゑ　[illegible]

・三條右大臣定方公二男母中納言山蔭卿女号五御門中納言

・哥仙傳云應和三年九月任中納言同十月二十八日昇殿康保二年十一月依病辭官并別當三年十二月二日薨年五十六

河原左大臣

▲古今集意四　[illegible]

・[illegible]

・[illegible]

・[illegible]

・清女納言枕草紙云山あゐ[illegible]

・[illegible]

・嵯峨天皇第八子從一位左大臣融公寛平七年薨

權中納言敦忠　左

▲後撰集意五　西四條前齋宮延喜皇女雅子内親王

・[illegible]

・雅子内親王をこそ[illegible]

・[illegible]

光孝天皇

▲古今集春上　仁和の帝[illegible]

・[illegible]

・[illegible]

・皇代記御諱時康号小松帝仁明第三御子母皇太后藤澤子紀伊守後五位下贈太政大臣総継女仁和三年丁未崩於仁壽殿年五十八同九月二日壬申葬小松山陵

藤原高光　右

かくばかり
へがたく
見ゆる
世をよ
うらやまし
すめる月に
雲れ

▲拾遺集雑上　法師まかりなんとしたりける時に

家集云村上御時蔵人頭のかうぶりをもとめて侍りけるに

・歌仙傳云應和元年十二月四日到横川入道如覺

・父九條右大臣師輔公八男号武峯女時

中納言行平

たちわかれ
因幡の
山の
峰に
生ふる
まつとし
聞かば
今かへり
こむ

▲古今集離別

・歌のことばは周防の國に流されて侍りける人に

・三代實録齊衡文德二年正月從四位下在原朝臣行平為因幡守

・四品阿保親王男

・公卿補任云天慶六年任中納言寛平五年薨七十五

源公忠朝臣　左

山路
こえて
子規
いま一声の
聞かまほしさに

▲拾遺集夏

・家集云かうのもとされ屋風にやまをこゆる人をみてよめる

・童女のすがたをかりてやうやうをけもとゆいうけをして紫をもとりて

・歌のこころはをまをめぐりはるかに山路をこえてゆきかへりて

・光孝天皇孫正四位下大藏卿国紀子野

・歌仙傳云天慶四年三月任近江守

四月十二日昇殿六年二月兼右中弁八

年依病辞弁九年卒年五十九

在原業平朝臣

ちはやぶる
神代も
聞かず
竜田川
からくれなゐに
水くくるとは

▲古今集秋下　二條の后高子贈太政大臣東宮貞明の御息所長良公女

・歌のこころは竜田川を紅葉のながれたるをかくるをかくるをかくるをよめる

・三代實録云業平者故四品阿保親王第五之子正三位行中納言

行平男也阿保親王聚植武天皇皇女伊登内親王生業平

壬生忠岑

▲拾遺集春　題しらず

・秋のくるかはるを日すくるのべ
小屋のあるじ　ちぶ代のこゝろ上をう
ひき用ひんかはめ　ふぐこゝろ
のこゝろ　ちぶ引　ゆ　ちぶ
秋ちか
・ゆ日の年　和の子日の修　いへこゝろ
いとべ
・忠峯光祖不詳作者部類云後五位
下安經子云一説府生木工允忠
衛子
・古今集序云右衛門府生云

藤原敏行朝臣

▲古今集意　寛平宇多帝時后の宮ゆこゝ舎のこゝ
・后宮八七條后温子昭宣公女　袋草紙云仁和四年十月六日入内
・秋のこゝろはひとたびめをそむかのみなべらるのゆえ
ふこゝ　ゆ　ふまおりあいぐこゝはをぶにめをさこゝや
こゝぶこゝ　上の二句はこゝさくといこん序
・古今集は小町
うつこゝさこゝこゝあこゝめ　こゝ
・南家祖武智麻呂こゝ六代孫陸奥出羽按察使冨士麻
呂一男
・歌仙傳云　寛平九年七月十三日叙従四位上九月任右
兵衛督延喜七年卒

齋宮女御

左

ことの
はゝ
こゝのまりそ
うこゝこゝこゝ
いづこのをとこ
ちぐこゝめこん

▲拾遺集雜上　斎宮こゝ秋　廣田ちぐこゝ
松風　夜　こゝ　こゝ
・延喜式第五九天皇即位者定伊勢太神宮齋
王仍簡内親王奉餝者卜之云云卜之云云詔遣
勅使就彼家告示事由神祇伯已上一人寮僚
下隨勅使共向卜部解除神部以木綿著賢
木立殿四角及内外門九齋内親王定了即
卜宮城内便所為初齋院板襖而入至于明
年七月齋於此院更卜城外淨野造野宮了
八月上旬卜定吉日鴨河板殿遷
入日至于明年八月齋此宮九月上旬卜定吉日
鴨河板殿遷入就伊勢齋宮云云
・秋のゆこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
・齋宮女御　種四位上　三品式部卿重明親王女母貞信
公女
・拾芥抄云後二村上女御号齋宮女御又麗景殿女
御云云・歌仙傳云長平六年九月十二日卜定八歳

伊勢

雅はゝ
こゝこゝ
声のこゝのまも
あはこゝのをを
こゝこゝ
こゝや

▲新古今集意　題しらず
・秋のこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
・世こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
・日野家祖真夏こゝ四代孫前大和守従五位上藤原継蔭
云伊勢女
・拾芥抄云寛平法皇御息所　行明親王ヲ産ム人也
・袋草紙云後園法師慈円の車の後にのりてゆきこゝ京の同
後にて俄にたちて数町歩行法房取て同じ笠園差て云伊勢
の御の家の法師こゝ

藤原敏行朝臣　右

秋きぬと
めには
さやかに
みえねども
かぜの音に
おどろかれぬる

▲古今集秋上　秋立日よめる

・續万葉論云　或説に秋はいとなかれば
こゝに見ふあまりかなしきもの
のわかれにかなしきもの
もうしぶ

・さやうは一條禪公御説清くと顯昭は鮮く
し定家卿はさやうあるべからず大暑なれ
・洲股抄は清朝なれば
かくさぶ
ふ目庭朝
・歌のこゝろは竹の
・秋の
・文は良岑宗貞　俗名玄上　一説僧時
・大和物語云僧正遍昭小野山
・文は良因朝臣而終此名云
・拾芥抄云左近將監宗貞遍昭男俗名僧時遍昭出家後入道權律師

元良親王

ちはやぶる
神のいがきも
こえぬべし
なにおはばかる
ものとかは
しる

▲後撰集意五　まいてきて高極の法皇にまゐる
・京極の御息所は時平公女廣子宮多天皇へまゐりて雅明
親王載明親王をうむ
・歌のこゝろは
・文は良岑宗貞　俗名僧時遍昭出家後入道權律師
・零標は延喜式雜式云凡雜波津海中立零標若有旧標移
・御父は陽成天皇
・日本記略云天慶六年七月廿六日三品元良親王薨



大中臣頼基　左

ちはやぶる
かみのいがきを
こえぬべし
なにおはばかる
ものとかは
しる

▲拾遺集賀部　おなじ
・竹の
・文は良岑宗貞　俗名玄上　一説僧時
・大和物語云僧正遍昭小野山
・文は良因朝臣
・天慶六年七月廿六日三品元良親王薨
・文は左近將監宗貞遍昭男俗名僧時遍昭出家後入道權律師

素性法師

今こんと
いふなる
長月の
有あけの
月を
まちいでつるかな

▲古今集意
・文は良岑宗貞　俗名玄上　一説僧時
・大和物語云僧正遍昭小野山
・文は良因朝臣
・文は左近將監宗貞遍昭男俗名僧時遍昭出家後入道權律師

天兒屋根命孫正二位右大臣清麻呂

今麻呂―常麻呂―岡良―輔道―頼基

・歌仙傳云天慶一年十月七日任
・文は良因朝臣
・文は左近將監宗貞遍昭男俗名僧時遍昭出家後入道權律師

源重之　右

▲詞花集意上　冷泉院御諱憲平村上天皇第二御子母皇后藤安子九条右大臣師輔公女　東宮ニナリ給テ前玉前の今まで　一首ハ哀ノ歌ニ

清和天皇　貞元親王　遠信　男　源氏姓

皇之　實兼信兄　参議　治部卿　貞忠男

歌仙傳云　長保年中　於陸奥國卒

源宗于朝臣　左

▲古今集春上　寛平御時　宇多天皇　きさいの宮　七条后温子昭宣公女　仁和四年十月六日入内

・續万葉論云　やまとうたは人の心を種として　盤石

・或説ニ　白氏文集の秋思の詩ハ燕子樓中霜月夜秋来只為一人長　とふを引り　大江氏ハ儒家ニ　菅家ハ文章ニ　白氏文集ハ　皇朝の家文　ぶんぶんの

・拾芥抄云　参議音人卿男

・作者部類云　延喜三年　任兵部大掾

文屋康秀

▲古今集秋下　紀貫之のこれ　序文のうち

・歌のこころハ秋の　のこと　にやまうぜのなを

・新撰万葉ふ　てふんこあり

・文屋真人ハ　姓氏録云　天武天皇皇子　品長親王之後せとのへ　皇代記一品トアリ

・康秀ハ父祖不知人

・作者部類云　元慶三年　任縫殿助

大江千里

▲古今集秋上　紀貫之のこの歌のうち　会のうち

・歌のこころハ　ものハ天下ハ秋ふるを　月もむ

・或説ニ　白氏文集の秋思の詩ハ燕子樓中霜月夜秋来只為一人長　とふを引り　大江氏ハ儒家ニ　菅家ハ文章ニ　白氏文集ハ　皇朝の家文　ぶんぶんの

・拾芥抄云　参議音人卿男

・作者部類云　延喜三年　任兵部大掾

源信明朝臣　右

▲拾遺集意三　月のあるかなきかの夜

家集紙書ふかきのこるかなきかの月のあきらかにていとやさしくなん

・新のこころをきくにとりてもたゞ月のあるかなきかのあけぼのとてもたゞ月のあるかなきかのあけぼのとぞ

・父八前右大弁公忠朝臣

・歌仙傳云應和元年十月任陸奥守　安和元年十二月五日叙従四位下　治国　天禄元年月日卒　六十三

菅家

▲古今集羇旅　朱雀院御詠寛明親王第十一御子母太皇太后藤穆子昭宣公女

・ま向山万葉ニ長谷王駐馬寧樂山ト云　佐保過而寧樂乃手祭ニ置幣者妹乎目離相見漆跡衣

・此御車ハ昌泰元年十月宮瀧の御幸れ沙ニ樽律ニ仕吉の濱へもかゝ[illegible]

・素性法師ハ京いでゝの神もまつらにあらぬ神やくさんとあらぬ[illegible]

日本記畧　技業畧記

・新のこゝろハ此度院の農役ハ小忠新の忠きハえとるふ隱びは山のゝちのまつりなさ[illegible]ろなりなど即神のまつりを向[illegible]

・公卿補任云　昌泰三年右大臣四年四月廿五日太宰權帥　延喜三年二月廿五日薨於西府　父参議従三位是善卿

藤原清正　左

天津うぜ
ふるおの浦
みるかも
ものの雪みよ
うらぎぐさ

▲新古今集雜　殿上をまろ[illegible]

・殿上をまろ[illegible]

・殿上の[illegible]六位の[illegible]人の[illegible]位なる[illegible]ふもあし地下へ[illegible]の忠岑の長歌ニ九重[illegible]

・新のこゝろハ地下へ[illegible]殿の浦ニ[illegible]とゝ[illegible]

・中納言兼輔卿男

・天徳二年七月卒

三條右大臣

なのみ
あ山ぢの
山ろ
きもこゝろ
くるしきぞ

▲後撰集意五

・新のこゝろハ[illegible]

・[illegible]

・[illegible]

・[illegible]

和名鈔　蘊敬本草注云五味　和名作祢加豆良　皮肉甘酸核中辛苦都有鹹味故名五味也

・三条右大臣　定方公内大臣高藤公二子

・日本記畧云延長二年正月任右大臣　義平二年八月薨

源順　右

水のおもにふれる
つゆあるを
こがらしぬれば
そもそもこれ秋の
なかばなるべし

▲拾遺集秋　屏風ニハ月十五夜ヒ
ある家ニ人あまたゐしてゐる
所のこゝろハ水の面もてる月を
いとゝてきよくこゆるふるてを月並
うゑにつゝみぞこのひかハ月中を指
なりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
月並のあゝの紅もゆゝいる緑ゝあるゝ
・拾芥抄云左馬允舉男春宮藏
人能登守從五位下

貞信公

小倉山
こゝろの
そゝみぢを
こゝろ
あゝば
いま一ゝびの
みゆきまちまし

▲拾遺集雜秋　亭子院上皇大井川ニ御幸今上ニハ行幸
行幸ありて行幸今上ニ寛喜ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

右

清原元輔

秋のゝ草の

錦手

音物よ

▲家集　小野の宮殿実頼の遣

・彩のてるハ錦をわくるとぞ

・秋のゝ草ハ鹿のちくなるもの

・しもしきなれ　くもゐにとを鹿のもとにいふ

・せんとすれとふるさとよりはきてうのよ

・なくこゑやようつるくまよりあれ

・うしとはひとりて袖ぬれ　宇

・深養父孫後五位下行下総守泰光

一男

・母ハ後五位下筑前守高向利生女

左

坂上是則

▲古今集冬　なくなくもうちもとけぬる

・縫万葉論云此歌ハ吉野の山ハ天和の国にてすぐれたる山と万葉一

天武の御製にもよしのゝ宮ハつくるとて

・友やくの中きふつて

・重ねてこゝ山ハ

・ちくさ　ゆいつもるんよりまるとゆ

・ふ　匂ひて感情ふかくなり

傳ハ歌人一首ハ

源宗于朝臣

山里をみそ

佛ーさ

▲古今集冬　冬のさとあ

・歌のこゝろを花のえ　れもとゝ　ゝ

・ゝ人ハ　ハ　ひとすにうゑ　の車ハ

・ゝ山里ハ　ハ　ゝ

・皇代記云又ハ光孝天皇皇子一品式部卿親王元

納言従三位

・歌仙傳云天慶二年正月叙正四位下同年ゝ卒

・作者部類云天慶三年六月十日卒

凡河内躬恒

▲古今集秋下　ちる葉の花をよめる

・歌のこゝろハ　ゝ花の　ゝ

・ゝ　ゝ

・ゝ　ゝ

・ゝ　ゝ

・ゝ　ゝ

・歌仙傳云寛平六年二月廿八日任甲斐権女目延喜

七年正月十三日任丹後女目所厨司同十一年任和

泉権掾

・作者部類云延喜廿一年正月晦日任淡路権掾

・父祖不知人凡河内ハ古事記云天津彦根命後

藤原元真　右

▲家集一　卯花

・彩のこころハ山里ハ物つゝ陽まもるゝ[illegible]

・拾芥抄云甲斐守清邦男

・歌仙傳云天德五年正月七日叙従五位下諸司康保三年正月廿七日任丹波守

壬生忠岑

▲古今集憲三　紅葉

・歌のこころハ物のもみぢしたつ枝ちくて下紅もらく[illegible]

・壬生ハ[illegible]むハ壬ハ水のこゝ[illegible]

・和名鈔土佐国安芸郡丹生布筑前国上座郡壬生布あり

三條院女藏人左近　左

▲拾遺集憲　大納言朝光げら

・はゝ敦忠役小角昔葛城山より金峯山

・父祖姓氏不詳

・拾芥抄小大君三條院坊御時女藏人左近

坂上是則

▲古今集冬　大和ゐて

・歌のこころハ[illegible]

・田村麻呂四代孫好蔭男

・作者部類云加賀介干時御書所裏仕延喜朱雀二代

藤原仲文　右

▲拾遺集　雜上　冷泉院東宮ゝやり
まゐらせ侍りけるとき
[illegible]

大中臣能宣朝臣　左

▲拾遺集春　入道式部卿のみこ
[illegible]

・歌仙傳云　天禄三年十一月補祭主
[illegible]
大嘗會　正暦三年八月九日卒七十　延長元
生云

春道列樹

▲古今集秋下　題しらず　山の
[illegible]

・歌仙傳云　貞元二年正月任上野介
八月二日叙正五位下造大
[illegible]功　正暦三年二
月卒七十

・信濃守公葛二男

・春道宿祢三代實録貞觀六年五月右京人因幡權
掾上六位物部門起賜姓春道宿祢云云

・或説云新名宿祢一男延喜十年五月十九日補大章生
延喜任太宰大典廿年正月廿日任壹岐守不發任

紀友則

▲古今集春下　[illegible]
[illegible]

・歌仙傳云寛平九年正月十一日任土佐掾同　十年正月
廿九日任内記延喜四年七月廿五日大内記

壬生忠見　右

▲新古今集春

▲家集ニハ屏風の絵ニかくを

・歌のことハ書ハ[illegible]

・萠る燃もとうれ　日ふ火をうぬ

・拾芥抄云忠岑男　歌仙ハ

・歌仙傳云天徳二年正月三十日　任摂津權大目

藤原興風

誰をかも
しる人にせん
高砂の
松も昔の
友ならぬ
花をのみ
見ける
春の山
里

▲古今集雜上

・歌のことハ[illegible]

・傳ハ歌仙の歌のことハ出ち

平兼盛　左

忍ぶれど
色に出にけり
我恋ハ
物や思ふと
人の問ふまで

▲拾遺集秋

・歌仙傳云康保三年正月七日叙従五位上天元二年八月任駿河守正暦元年十二月卒

紀貫之

人ハいさ
心も知らず
故郷の
花ぞ昔の
香に匂ふ

▲古今集春上

・孝元天皇末流紀本道孫望行子童名阿古久曽

・作者部類云天慶八年三月廿八日任木工頭天慶九年卒

中務　右

秋の色の
ふかくなりぬれば
ちくさの花の
ちりぬべし

▲後撰集意四　平の兼樹の
うくいうれいたるふみ
・歌のこころを秋のこれとくちば
うゑしべ
しらべさとりなるをくの
こころの秋をはふかく
いのくらをあるがうしと
・歌仙博士宗多天皇第四子二品中務
卿敦慶親王女母伊勢ニ又云朱
雀院以後圓融院御宇間人也寛和年
不詳

清原深養父

夏の夜は
まだよひなれど
月のいる
くもの遠くに
鳴くほとゝぎす

▲古今集夏　月のやどりをこそ
・歌のこころ月の源でもあるべし
・清原真人者姓氏録云敏達天皇孫百濟王後也
・大系圖云舍人親王五代孫房則子

○若菜事
▲公事根源云正月上の子の日をもて
ちくさ寛平年中より始まる
延喜十一年正月七日後院より七種
の若菜を侍を天暦村上四年二月
廿九日女御安子朝臣若菜をもてる
李部王の記ようにえらう若菜を十
二種供ぐ
・若菜　・芹　・芝
・蘠　・蓼　・水蓼
・蓬　・水雲　・松
師遠ふ
ゆ白河院の
師遠ふ
ゆ
・蘠　・芹　・芝
・御形　・すゝしろ　・仏の座
・菁
正月七日七種の羹を食する
人
又和名抄
・年中行事秘抄云上子日内蔵司
供若菜
内膳司同供之

文屋朝康

ちるつゆ
ちぢ
の
ふるさと
秋の
つゆ
ちるなり

▲後撰集秋中　延喜の御時
・歌のこころ野づの秋
・作者部類云康秀子仁和後也大膳少進延喜三年任
大舎人允

・若菜　鄭　蘠　甚云　公吉文振原二同　松

白河院仰云松字如何　師遠申云若松松カ上皇被勅云相具松進上也

▲七種若菜

・茗・蘩蔞・芹・菁・御形・須之代　黄花菖　菜服

・佛座蘊

・金谷云正月七日以七種菜作羹嘗味何事是除邪氣之術也

・同記云正月七日登岡望四方得陰陽静氣觸其目除憂悩之術也

・荊楚歳時記云旧以下正旦至講食鷄故歳首唯食新菜又曰正月七日為人日以七種菜為羹食之人無萬病

・源氏若菜巻河海云十二種若菜

・若菜云　公夏根源　教

・和名鈔云崔禹錫食經云温菘　音綏和名味　辛大温無毒者也

・桐火桶云元久　後成卿　元久　正月七日七種を

たくはこ七づゝ七くさのかゆ　四十九たくなる

ゆゑ　鍋の人々　ゆゑ　ものゆゑ　四十九

ハ七星し四十九たくハ七曜九曜せハ岩五皇あ

ゝ　四十九の星をうゝ

唐土の　日本の　名也　七種

東　なてゝ

嵯斗張

右近

わかゝ　ゝ　ゝ　ゝ

きゝ

ちゝ　ゝ

ちゝ　ゝ

人のいのちは

さゝ　ゝ

あるゝ

▲拾遺集意　ふゝ　ゝ

・ゝ　ゝ　ゝ　

・薄　のくれ

六帖四　人のうへてあるまゝ　ヤイ
さゝをとあれなの花笠よたり

好忠

夫五　屋のあり　あはれのちゝ
さくまできえぬ　長能

・かくまゝ
・きくまゝ

清輔

吾ひとりこうなれふるそうれ
をつてくれたる人まつ　西行

山家　ふるさゝ　ゆつのさくさるうなぐふ
とまなくまくのりまつ　ちりん

・川なから　夫五　内者

・藤　夢

・川井

▲拾遺集意　天暦御時歌合

・万葉集ハ　安必意モ波受安流良年伎美乎安夜思苦
毛奈氣伎和多流香比登能等布麻泥てゝ
・傳ハ歌仙のあるあぐ

平要盛

ものふれど
いまだよろ
こゝろ
ものや
おもふ
人のゝふまぐ

・ふつ
・田
・畠
・稲
・稲
・麻
・井つる

麻漬良乎等於毛敵流母能乎多知波
吉氏可爾波尓世利曽都美都

・帝草紙云忠見貧敵ニテ住田舎ニ者也而天徳ノ歌合之
時有勅被召上朱雀門ノ曲殿ニ宿ス田舎ノ裝束ノ
ママニテ柿ノ小袴ヲ于今持テ懸肩ニ

壬生忠見

▲拾遺集意　天暦の御時の歌合

・歌のこゝろ　人をおもふこゝろ　いまだ
・ものをいふ　ものをおもふ　こゝろ

千代若草

為君山田之澤惠見採跡雪消之水

雨蒙裾所沾　信實

食萬敢蔓菁煮將来擦ホ行騰燻而息此八公

夜麻賀多迩麻祁流阿袁那毋岐備比登等等毋尓斯都米婆多双斯久毋阿流迦

清原元輔

ちぎりきな
かたみに袖を
しぼりつつ
すえの松山
なみこさじとは

▲後撰集意

歌のこゝろをかたちにうつしてこゝろをしるべしとなり

▲拾遺集意

歌のこゝろをかたちにうつしてこゝろをしるべしとなり

▲子日事

公夏根源云ふ　むかし一人の皇子ありけり　日ごとに松をひきめぐらしてあり　朱雀院圓融院三條院ありしの時代にもかくのごとくなりけり　ハ月ハ寛和元年二月十三日ハ年号　清涼殿の御前に御車あり　時平の大臣　左大臣　右大臣　内大臣　衣冠　威儀　人ハ布衣　殿上人　ハ布衣　殿上人　ハ布衣　殿上人　

・年中行事抄云正月子日登高望四方得陰陽靜氣鬱其日除憂惱之術也

・菅家文草第六云慮後雲林院不勝感歎聊叙所觀序云予亦嘗聞于古老曰上陽子日野遊厭老又曰侍松樹以摩腰習風霜之難犯也和茅羹而翫日期氣味之克調也

・拔來畧記云宇多天皇寛平八年閏正月六日有子日宴行北野雲林院

清正

子日して　きみのゝ　ひめこまつ
ひろげやふ　代のつゆけを　そまなん

忠岑

子日するのゝくまこまつ　ちとせ
千代のかゝ　ふかきをひろく

公實

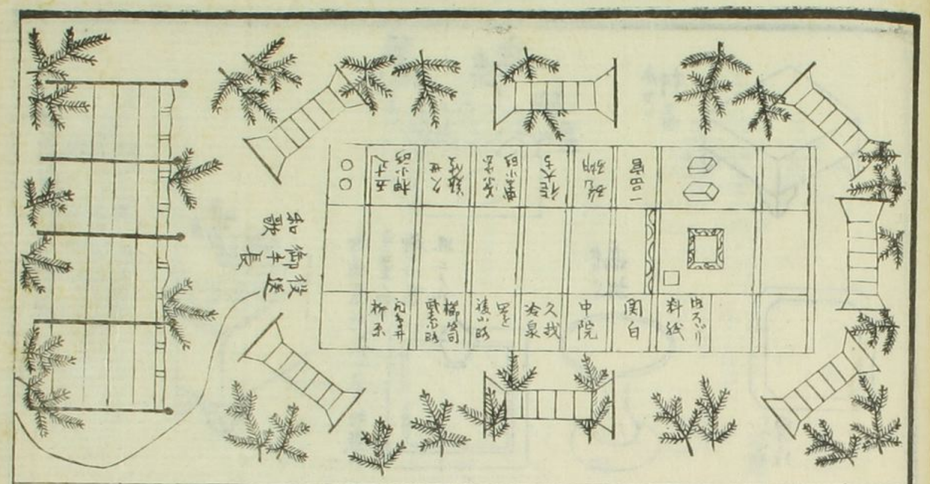
子日して　三葉の松を　ふる代ゝ
さゝぐ　ちとせの　ちとせ　つもれる

道濟

ひめこまつ　ひろくゝ　のゝくまに
ちよ　とゝろふ　ふかき　ちとせの

・子日宴圖

此絵ハあゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ




中納言朝忠

あふことは
くもゐのよそに
なりぬれど
なほ　ぬるゝ
人ぞ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ

▲拾遺集憶　天暦の御代の歌合

・新のゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

・傳ハ彩仙のゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

謙德公

あふことを
いふべき人も
おもほえず
身のいたづらに
ふりぬべきかな

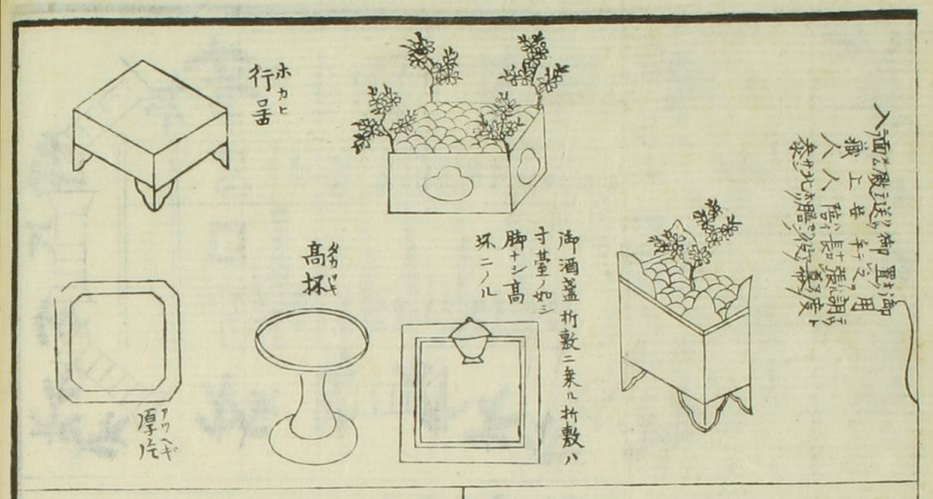
▲拾遺集憶

・新のゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

・敦のゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

・昭運要畧云九条右大臣師輔公一男母贈正一位盛子武藏守經邦女

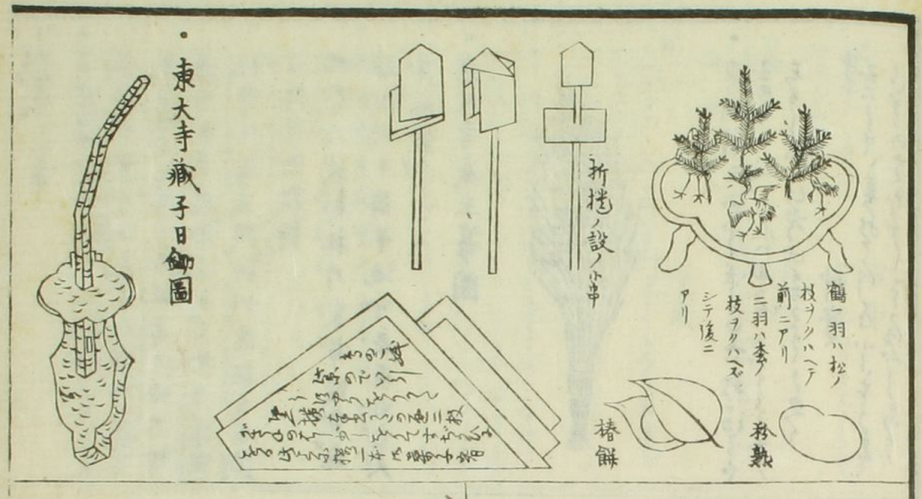
・公卿補任云天禄元年正月右大臣四十同二年十一月太政大臣正二位同三年薨加十贈正一位謚謙德公伊尹公封三河国號二條摂政




曾根好忠

・新古今集意　ぶつしゃく

・彩の名ゆゑのそこなれこぐ舟ふなびとをうしちはやん
舟ハゆくこもをぶいのちぶりの大海ふるぐさことを
序ものそけうこうのはしふぞふりくるぶくことを
・七今集
吾こうしちはかりもしたまてはあつこをもつかはぞ
らいつてこなりこはらひくてはいひまくまくぶ
くこえくをもおぐくこ。ちいつまき男孫し
・曾祢連ハ新撰姓氏録云神饒速日命六世孫伊
香我色雄命後也
・父祖不知人




・東大寺藏子日鋤圖

恵慶法師

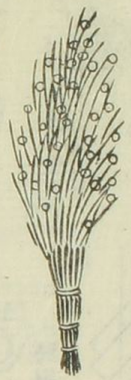
八重葎

・拾遺集秋　河原の院にて荒くさ
・河原の院ハ左大臣融公の家しふハを塩竈のうしふ
・歌のこころ
・父祖不知人

○玉箒之事

・万葉集廿巻云二年 天平宝字正月三日
召侍従竪子王目等令侍於内裏之
東屋垣下賜玉箒肆宴于時内相
藤原朝臣奉勅宣諸王卿等隨堪
任意作哥并賦詩仍應詔旨各陳
心緒作歌賦詩
始春乃波都祢乃家布能多麻
婆波岐手爾等流可良爾由良久
多麻能乎

・東大寺蔵玉箒圖



・真淵翁云玉ぐしまきのことにかはるなりけり
玉のをとらへばこれはかりもとをぶくるを
もとゝしるしなるべしけ考はなほよくうるべく

仲實

・俊成 玉ぐしもいまはなりのふるさとを
こまのをながくさしそめつゝあり

源重之

風をいたみ
岩うつ
波のの
おのれのみ
くだけてものを
おもふころかな

▲詞花集 恋 冷泉院 村上天皇第二御子御母皇后藤原安子九條右大臣師輔公女 御諱憲平

東宮にまゐりけるを
思ひかけてものをいふ
恋ひのこと
・歌のこゝろをこゝにたくらべ人をおもふ永のこゝ
のまくらぶ
・万葉集 多ツヤマガハ イハニフレ キミガタダシマロハモタズ
雨零者灌都山河於石觸君之摧情者不持
・六帖
・傳ハ歌仙の方の筆よの事



あまくしまきのくしまきのこゝろをもつて
やふるをくきくる

通親

西法二示
玉ぐしまきのもとをくしつゝ
あまりいくとん

俊成

同
玉ぐしまきのあまりのもとをくしつゝ
ゆくゝ
けふ箒をかたらとらふ説こゝあるも
・俊頼朝臣の名抄云蓍ハ小ハ中の
の家よりこれをすゝめ
の日小ハ小ハをゆひ
年の如ふるをくきよ
・清輔朝臣奥儀抄云家ハの
ハ七日ふこれする
日蓍
・大中臣能宣朝臣

みかきもり
清士の
火の
ゆくへ
しらぬ
恋をするかな

▲詞花集 恋 ざりければ

・我のみ
・宮衛令云理門至夜燃火謂内及中外三門 並大器貯水監察
請出入者
・衛士ハ諸国小軍團より
・衛士ハ諸国小軍團より良民の三丁の中より
・衛士ハ諸国小軍團より良民の三丁の中より

▲曲水宴　三月三日

・公支根源云これはむかし王卿ちかごろまねびて清涼殿の御前にて流水を堰せ水をながし盃をうかべて文人詩をこれをのせ酒を飲の作記よのせ水なり又類聚宗天皇元年三月上巳日後苑に幸してめぐりの水のほとりにのぞみ日本紀にあり曲水宴八用の世にいたりてはもろもろの文人詩を水のなかしふ盃をながしてその盃をとりてのむ羽觴を飛もまたこれもこれなり又上巳のいとなみ人ふる赤流水を水のほとりにいとなみ漢をもちいる世に又草の綠を三月三日小用巳用巳王ろうこおくるのすつくろう

・漢書外戚傳奉武衛皇后傳云帝拔霸上還孟康曰拔除也於霸水上自拔除今三月上巳拔禊也師古曰拔音廢禊音系

公朝

かきあげの水の中の水にさえいてろいのこるまつのさうびき

蓋圓

おもひのべてもをのこもかりの水にうつるいの字の書のうれ

花づゝ

漢人毛拔浮而遊云今日曾我塾故花

藤原義孝

きくこゝろ
さしこうし
ぞうし
爺さん
あぐもぐ
ぶつと
ぶもしく
そうゆ

▲後拾遺集壱　さうんあのとうこうこてつうこる

・彩のんはあるぬぐいつゆあぐし爺をあるーこぐすでせん
つふ一彩の後まはけくせふものうあるふぐもあん
うーしもひこうるるくふくやいうーしくしくしく

可獻宗廟因世大治遂至大平後人相傳作
草餅三月三日進于祖靈草餅之興從此始
・公事根源集釈賦松下二十節録故支非也云
草餅ハ幽王二始二非ズ草餅ハ鼠麹草餅也
本草陳藏器曰荊楚歲時記云三月三日取鼠
麹草汁密和為粉謂之龍舌粉以厭時氣日
本ニテ鼠麹草ヲハコガサト云云
・文德實録一卷嘉祥三年九月辛巳崩
峨太皇太后崩壬午葬文皇太后于深草
山遺令薄葬不營山陵先是民間訛言
云今茲三日不可造餻以無母子也識者聞
而惡之至十二月宮車晏駕是月亦有太
后山陵之事其無母子遂如訛言此間
田野有草俗名母子草二月始生莖葉
白脆每屬三月三日婦女採之蒸擣以
為餻傳為歲事今年此草非不繁生
民之訛言天假其号
・和名鈔云李草云董子盧子音滝和名
・義京考集云ひつ草のこ〜ふうきん
三月三日草もちひ〜そ作めて〜
つくりて色ふかるひ〜〜〜まるも
〜草ものをけ〜〜〜〜〜〜〜〜
すいぶ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

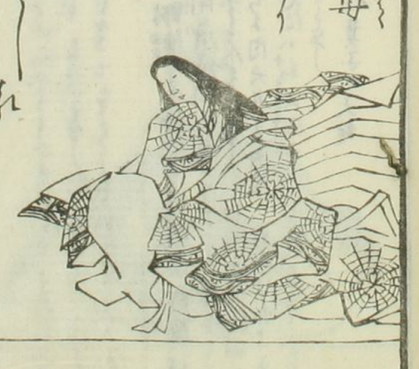
▲拾遺集意　女のもとにつかはしける日くれつかた
・歌のこゝろをかくれそやいろこゝろ
・父ハ恒德公為光公
・義京考集云ひつ草の義ハ栗田の関白道兼の義
・大鏡ニ好平納云道信君ハ信明の上ニ
・道綱卿ハ東三條摂政兼家公子長德二年任右大将同三年
大納言長保三年正二位寛仁四年薨
母ハ正四位下藤原倫寧女

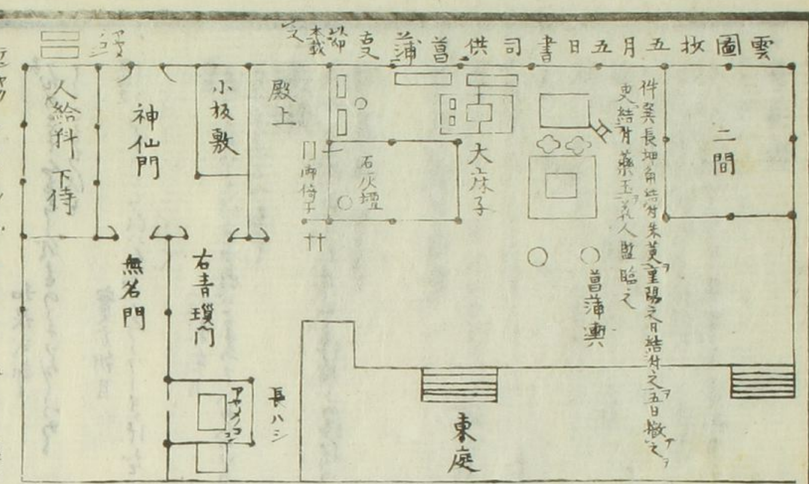


和泉式部
実方朝臣
後拾遺
俊頼朝臣
・遊舞
年中之例記云五月三日内の御殿の
次遊舞ある云

▲五月五日獻菖蒲事
・公事根源云六月あやめ草を百度の酒
・新撰字鏡云菖蒲ハ天平十九年より
・菖蒲ハ蜻蛉日記ニ

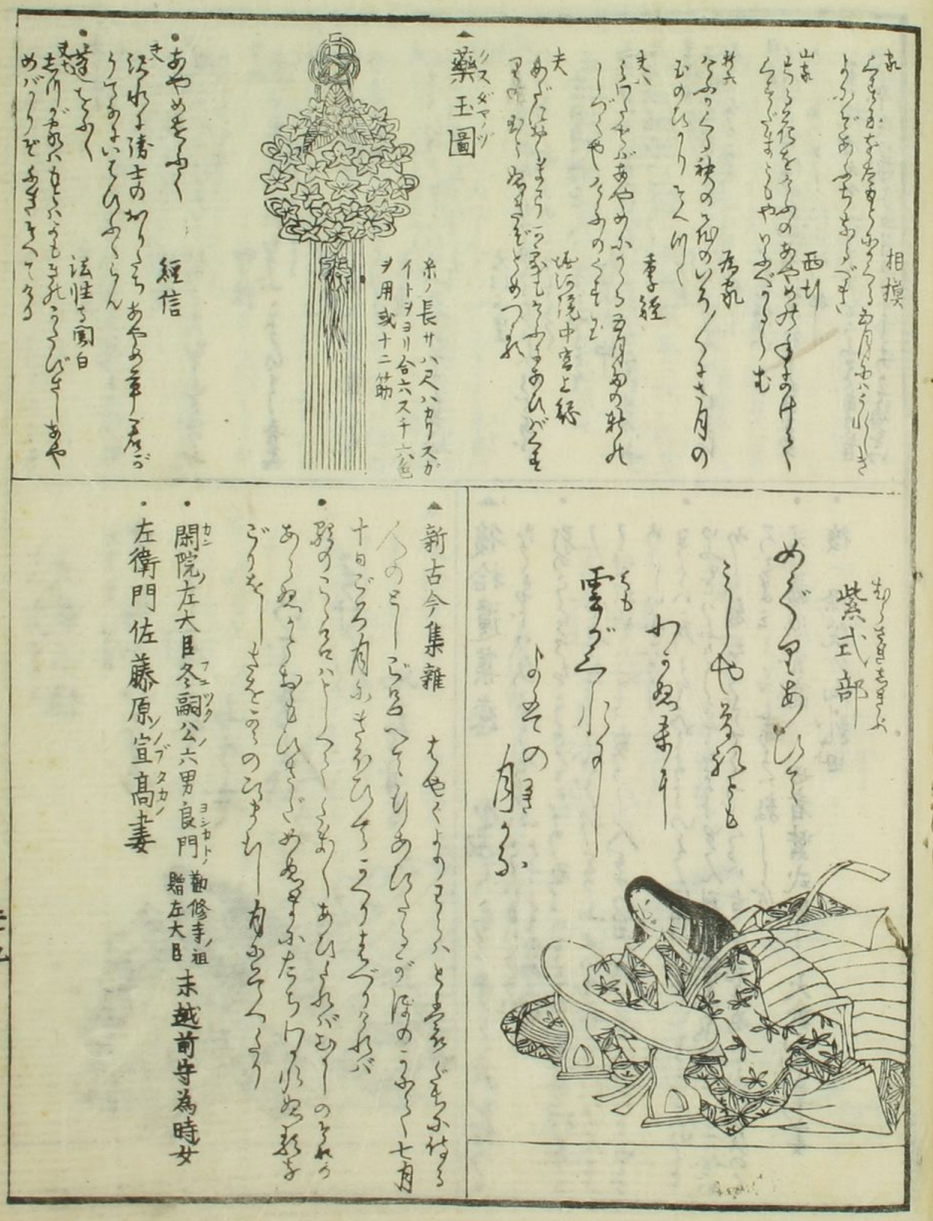
▲拾遺集意　入道摂政兼家公






▲新古今集意　中関白道隆公うせたまへりしのち、儀同三司母

▲拾遺集雑　大覚寺の僧正、



## 和泉式部

あらざらむこのよのほかのおもひでにいまひとたびのあふこともがな

後拾遺集意　こちら例ちゝ付きまこころ人のもとふつゝり

・歌のこころハ今ハはてふあづまふべくもなりぬえば黄泉そを知もひとぐふ今ひとたびいまやまかてらあづ

・切し

・あしたゝ事ハ　ぎたのつまりさあくあびあんふ

・父ハ大江雅致　母ハ越前守保衡女　同子内親王乳母

・上東門院一条院后影子の女房和泉守橘道貞妻也

## 紫式部

めぐりあひてみしやそれとも分かぬまに雲がくれにしよはの月かな

・相撲

・あやめをもつく　経信

・清吉の　うてあやめ草　ながらん

・法性寺関白

・閑院左大臣冬嗣公六男良門勧修寺祖贈左大臣　未越前守為時女

・左衛門佐藤原宣高妻

新古今集雑　たもくのうちにはとまるなかるゝ竹ゆくえ人のこゝろ七月十日ごろ月ふさるひとこゝろまづうれば

・歌のこゝろハ　ゝ　あひとれば　のまれ

・ぐりあ　ふたら　小ぬ　ぬ

・閑院左大臣冬嗣公六男良門勧修寺祖贈左大臣　未越前守為時女

・左衛門佐藤原宣高妻

大貳三位

有馬山いなのさゝ原かぜふけばいでそよ人をわすれやすると

▲後拾遺集意　かりびとゝ云ふ事をこゝにおぼつかなくもゆくへかな

・彩のこゝろをうくなのめにはこゝろふかくあはれあるこゝろ山よいでやとはれよ人をこゝろ寸彩やはすれ数しら人をわすれぬるものゝうらめしきかな

・そもゝ所こゝろやうこゝろ神のこゝろ

・いつをこゝろ

・紐をこゝろ

・後一條院の御乳母　母者紫式部　大貳紫章妻

・又ハ藤原宣高

赤染右衛門

風すゝハぎ

小萩ふけ

ゝ

▲後拾遺集意　中関白道隆公が情を付うゝ乳とゝ

・弱めゝゝゝゝゝ

・法性寺関白忠通の記

・又ハ大和守時用　匡衡の妻　擧賢の母し

・日本紀天武天皇紀云五年八月辛亥詔曰四方為大解除用物則国別国造輸被柱馬一匹布一常以外郡司各刀一口鹿皮一張鑪一口刀子一口鎌一口矢一具稲一束且毎戸麻一條

・國史曆延文二年六月廿日條云

六月被之支

一重服〻人悼〻宗流例之

一軽服〻人除服以後雖日数〻不悼〻条〻作〻〻趣〻〻遠

一永徳二年太閤美園白殿六月被〻〻涉除服以後〻〻欲勿論歟道言之所存

涉〻相違歟

一京應建春門院涉被涉除服〻有無

勇歟〻〻有涉除服彼行歟若又勿論歟

一師遠家業〻〻説於重服〻〻人者可悼

〻〻条勿論〻姓者可悼〻〻〻以〻審之

一向不悼之

一鹿食人禁否事所見只今〻〻明但於

此色七ケ日以後〻〻悼〻〻由〻之〻歟若

彼被日数以後〻悼

一織中禁否事・天永・保安・安貞例粗先〻

見〻之所詮於織中大中臣被六月被

或行之或悼之然者其例不同歟

小式部内侍

大江山いくの道の

遠ければ

まだふみも

あまのの

くにぞ

▲金葉集雑　和泉式部　保昌が〻〻〻〻丹後の国

[illegible]

・父ハ和泉守橘道貞　母ハ和泉式部　上東門院女房

・源氏物語[illegible]

以上

一軽服〻人除服以後不悼〻条勿論〻歟

一〻〻日数中〻除服〻何〻〻〻〻〻〻〻

一〻〻人〻悼〻〻〻勿論〻但同〻〻人〻〻

〻〻悼歟

一喪家〻〻悼稱〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻且

葬〻〻〻行〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

用〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

〻〻〻〻

以上

・図書寮延文二年六月廿日今日六月被重

喪又号之師遠説〻師大外記師遠六

月被重服并姓〻雖物不管賢陰

陽氏家説又同〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

未〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

伊勢大輔

いにしへの

奈良の都の

八重桜

けふ九重に

にほひぬるかな

▲詞花集春　一條院の御時奈良の八重桜を

人のもとにつかはすとて　伊勢大輔

[illegible]

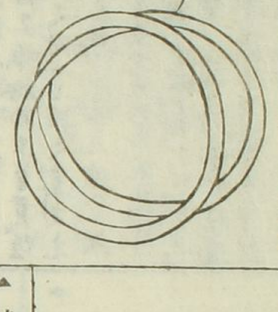
・父ハ祭主大中臣輔親朝臣

・後拾遺集作者の部に[illegible]

同廿年同長和四年同長元七年同永保三年
同久安同大同以後久安四年迄十六月年
大暑如此歟延喜長和四長元七永保
久安四ホ之年皆以十月被行之歟則
八ヶ度之中已及五ヶ度先以十月被行歟

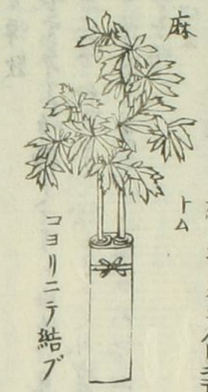
茅ノ輪圖

チガヤヲ足子ニテ
上ヲ厚紙ニテ
マキノリニテ
トム ル



疫筒圖 ツノウヘナ巻マキタル
紙ヲ折カヘシノリニテ
トム

麻



コヨリニテ結ブ

園大暦貞和五年六月廿三天晴今日
六月疫如例 予並大夫出座 公卿座為
陰膳光源朝臣 衣冠 殿上人 役送 永季布衣
如輪 又方高倉宮 陰陽師下家司

後拾遺集雑 大納言忠教

清水納言

よをこめて
とりのそらねは
はかるれど
ゐなの
ふかさの
しらまくに

皆如例

●院中年中行事云六月毎日公卿殿盃
アリ云々此月稲ニ入ヲヤリ芽ガヤニテ
調ル上ニメサル、時ハ中臈 内侍 多ク
ナリ次ニ別當ヨリ以下殿人多ク稲ニ入
ヤウノ夏右ノチニ麻ノ葉ヲ長一尺計
二三本紙ニツヽミ持テ左ノ足ヨリ
入右ヨリ出ル以上三度ナリ此時寄ヨリ
オモフコト皆シキ子トテ麻ハヲキリ
ニキリテモハラヘシルカナ

●ちの輪 為家

支九
ちのわにすてるちのこれをくぐれば
あらはらやくあらはらやくあらはらの郎

●菅貫 師頼

支九
すがぬきをちぶ祓もなをしふ祓もをんなふ
すがぬきをれくぐれくぐれ

支九
月のなごりをなごりをしてすぐ
なごりをなごりのなごりに

●夏祓
ごせの川のこまをとすとて
ながらくんとやまりぐくへする

宝治百
月のなんとやまりぐくへむ
ーハ今年ぐさぐめぐくん

左京大夫道雅

後拾遺集恋 ゆきの衛

三条院女御 皇女
尚子内親王

ものをこそ
思へとかくは
なりにけり
ぬるとは
人ぞ
しらまし

●後拾遺集恋 大納言公任

ものをこそ
思へとかくは
なりにけり
ぬるとは
人ぞ
しらまし

●園大暦貞和五年六月廿三天晴今日
六月疫如例 予並大夫出座 公卿座為
陰膳光源朝臣 衣冠 殿上人 役送 永季布衣
如輪 又方高倉宮 陰陽師下家司

●後拾遺集恋 ゆきの衛

三条院女御 皇女
尚子内親王

ものをこそ
思へとかくは
なりにけり
ぬるとは
人ぞ
しらまし

●後拾遺集恋 大納言公任

ものをこそ
思へとかくは
なりにけり
ぬるとは
人ぞ
しらまし

又ハ清原元輔

權中納言定頼

朝ぼらけ
宇治の
川霧
たえだえあらわる
瀬々の
網代木

▲千載集冬　うぢがわの　はるかに　ながめ　やる　ほど　ゆく　ふね　の　あと　の　しら　なみ

・延喜式内膳式云山城国宇治近江國田上氷魚網代各一処九月至十二月三十日貢之

・公卿補任云　長元二年任權中納言云々寛徳二年正月薨年五十

・まごーの後　まごーの後　ながつきの月のふでーのりくする人はまごーのつのちのごとのりのりあり　順

京　いくばのこころ　ながつきの月のふでーのりくすまごーのりくすまやまくらん　忠見

・なごーののごーの　なごーのごーのごーをせする　彰親

・おもふことなる川　おもふことなる川　ながれたるものの　彰仲

・さびつるかな　さびつるかな　公朝

・霜のうぢ　霜のうぢ　隆季

・みのの笠　みのの笠　三條左大臣

・ものの　ものの　隆季

・あさぢをぬき　あさぢをぬき　隆季

・あさぢの　あさぢの　彰氏

・あさぢの　あさぢの　隆信

・ふかぬ　ふかぬ　保憲女

・あさぢ川　あさぢ川　俊頼

・人形　人形　定家

・麻と川へる川　麻と川へる川　三條入道左大臣

・道のちまた　道のちまた　光俊

・あさぢ　あさぢ　隆季

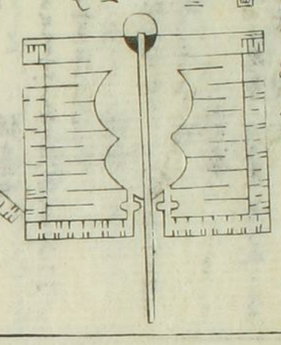
▲相模

ほさぬ袖だに
あるものを
恋よくちなん
ふるなみだ

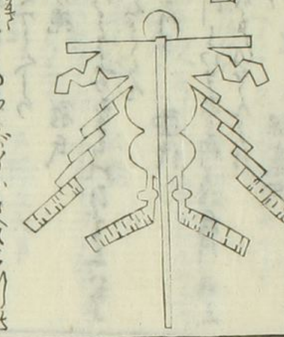
▲後拾遺集恋　永承六年　後冷泉内裏歌合

右近の相模　後朝　あさぢの　あさぢの　あさぢの

・人形仕立圖



・人形ノ圖



・大麻

・大根

大僧正行尊

▲金葉集 雜上　大峯入の時、地獄の釜の辺にて、桜の木を見て、

・歌は、三月つごもりの頃、山のさとにまかりたりけるに、桜の花のさかりなりけるを、

・大峯入の事、世継物語云、熊野に参る門のうちに、役小角、熊野の礫石を、

・又、泰義基平卿、親平等院僧正、天治二年五月任僧正、保延元年乙卯二月五日入滅

○七月七日　乞巧奠事

▲公事根源云、七月七日、乞巧奠あり、清涼殿の庭に、机を立て、その上に、瓜・茄子・桃・梨・大豆・小豆・稲・麻・糸・針・五色の糸を、針に通して、机の上に、香炉・燈盞・九献・酒・肴・菓子・

神隆八腹中のさをさ〳〵院威八竿上ホ
禪をき向〳〵ゝゝ七ゝ七ゝ

▲江家次第八云七月七日乞巧奠事

當日掃部寮鋪葉薦於清涼殿東庭
當南第三間其上鋪長筵妻東西

内藏寮官人持雜器奠物供於仙華門外雜色以下傳取供之

朱漆高机四脚立筵上東西妻二脚在北之其東南机南妻居菓子筥・一坏梨・一坏柿・一坏大角豆・一坏大豆・一坏熟瓜・一坏茄子二坏落地北妻居酒坏一口

・西南机圓上

・西北机居香鑪一口納殿百和香居朱彩花盤一口盛神泉苑蓮葉下居四両盛之

・置榊葉一枚榊金針七針件針別有七孔針五色糸纖令奠之

七孔針前楚威時記云七月七日牽牛織女會天河此則其事家〻婦結綵縷穿七孔針或金銀鍮石為針故凡菓於庭中以乞巧有朱子羅於菓上則以為得巧前例件針金銀各紙一枚而近代各七可奠之

・東北机同上但織針

自御所申下第一張置東北菓机上

北妻延喜十五年例用和琴裏書云立柱有三絃常用半呂半律故調也子

立黒漆燈臺九本於件机四脚角再中央如新敷謂丈九枝燈内藏寮供御燈明用土器件中央燈明有西説向北或向御前

召内侍取移五合散机上及筵上立殿上御倚子於庭中或无之為二星會合也令殿上侍宴上侍者

覆之藏人取御楊鞋祖俣座鋪於河竹臺東為雜色以下祖俣座或可俣南壁下云〻或有御樓御作文等事畢給禄及曉更撤之事了下格子雖長明猶下之亦上之〻

諸闇時祭天應八

・内裏織時猶祭之和二

・雨濕時設於仁壽殿西廂下行支藏人終夜東帯監臨俣小扱敷雜色以下炙終夜逢檢知之東帯

知信記云天承二年七月七日夜有乞巧奠事下官依為行支著束帯參宮供奉奠物其儀□畫御座庭

三條院

こゝなるも
あしぐるまゝ
なるべくば
こひしうぐも
ゝもの
月かな

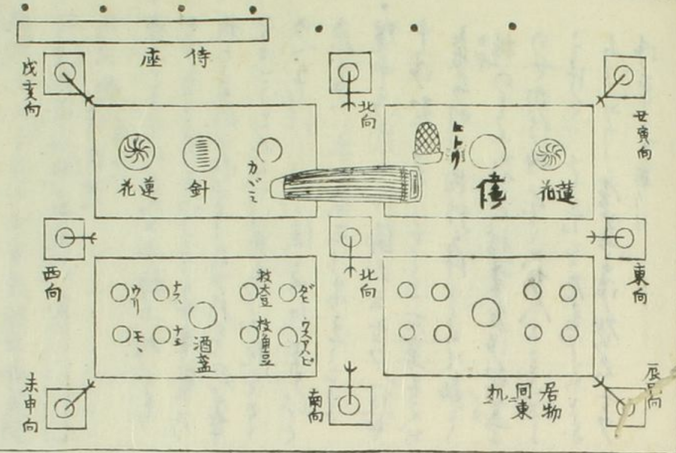
▲後拾遺集雜一　例あしびかりもりて位おぐさんと
おぼしめしくらべ月のあるやうをきゝ給へ〳〵

・素戔嗚の詠歌の村雲ふかしこの門をこそ〳〵
まさあり〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ

中ニ掃部寮敷薦ヲ二枚其上ニ長莚東西ヲ其上ニ赤漆高机四脚ヲ東西ニ妻ヲ件机木工寮進之而依異樓美麗造調為永年物在廉今日用之北二脚居十六坏色目見差圖南二脚中央横置琴一張南西机辰巳角居火取一口籠香其西敷ニ檜葉一枚椀置五色糸其西敷同葉盛蓮南東机未申角居御鏡一面同蓋其東敷檜葉一枚差金銀針各二穿五色糸其東敷同葉又盛蓮花立燈臺九本三行立之有手敷北廂北砌内掃部寮司敷帖為侍等通夜座諸司女□官侍等東帯供奉雑役長以下無官侍兼日□催當日参集刻限結番次勇通夜祗候検知行支宮司同前自御所申出物

琴　火取　御鏡

内侍女官持参白粉散□懸弁備衛重進天盤所又居侍所賀茂加例庵相□云乞巧奠料米五石四斗油三斗□




▲雲圖抜圖大概同之但燈一向逐南又相對有敷又此圖盛茄子坏盛桃々坏盛凡々坏盛茄子又火取ナクシテ琴ヲ置タリ此外此圖ニオナシ

▲年中行支秘抜云金谷云錦繡万花谷七月

良選法師

さびしさに
やどをとはばや
いでくなる
なのみなれぬる
いづくなるらん
秋の夕ぐれ

▲後拾遺集秋上　藤原長能

・秋のくるはたれかはつたへしらせけん　ちくさのはなのいろにぞ　ありける

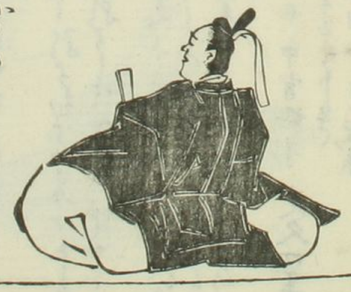
・ちくさのはなのいろにぞ　ありける　ちくさのはなのいろにぞ　ありける

・秋の夕まとゐのもとにうちなびき　ちくさのはなのいろにぞ　ありける

・作者部類云文祖不詳　母賢方家童白菊

大納言経信

夕されば
かどたの
いなば
おとづれて
あしの
まろやに
秋かぜぞふく



▲金葉集秋　源賢経信の今様の山ざとのふしをまねびて田家の秋風いとをかしくよめる

・秋のくるはたれかはつたへしらせけん　ちくさのはなのいろにぞ　ありける

・秋の夕まとゐのもとにうちなびき　ちくさのはなのいろにぞ　ありける

・夕されば門たてこめてあしの葉に　あらぬ秋風　ほとづれにけり

・夕されば門たてこめてあしの葉に　あらぬ秋風　ほとづれにけり

・夕されば門たてこめてあしの葉に　あらぬ秋風　ほとづれにけり

・父八中納言道方卿

・公卿補任云寛治五年大納言八年六月大宰權帥嘉保三年壬正月薨於西府八十

七日二星歡會夜也俗人候之或百天漢中変々白氣有光輝五色以此為微應更祚而願乞富壽乞子孫者百所乞唯得求一不得無求三年乞乃得自古直其驗

・風土記云七月七日牽牛織女會天河俗重此夜洒掃露庭机莚□祈河穀河穀謂牽牛

・東宮年中行事云今按ふ机ハうちかも事ふかもふくハ帝書寮乃机さ月ハ〳〵ハうちさ彩を延年七夕うちふ〳〵ふ〳〵の机とく〳〵の机をもひく東ふかハ木工寮ちゝ〳〵ある

・院中清涼殿儀式云七夕後禁中清涼殿ゆ〳〵ちる古事を文ハ祭の前日内侍ゆ〳〵て梶の葉の〳〵ふ歌と於書台清涼殿蓋よのせ内侍持〳〵ゆ〳〵殿人よ〳〵こさうけ〳〵ゆ〳〵を左ゆ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ

おもしろきこころを七日・七百首の歌・七調子・管絃・七十韻連句・七十韻の連歌・七百の歌のこと・七献の作酒・七ちまきのこと・七夕

・康富記云享徳三年七月丁巳抑今夕於禁中七ツ物七ツ以上五ツ其後声楽可有之由被宣此度後中松院御代被興行之後絶仍洞院内府有申沙汰既可有之由治定之処楽人等有申子細事各不参候仍俄被畧云々

・親長卿記云文明十二年七月七日晴今日七種支

一 鞠 一 揚弓 一 楽

一 郢曲 依人々故障無之 改囲碁了 一 和漢五十韻

一 和歌 義日七首 題賦之

当日被講講師 元長 飛鳥井黄門

一 七盃飲

人数 予 飛鳥井中納言 中御門中納言 侍従中納言 新宰相 基綱

源俊頼朝臣

うゝゝゝ

さくあるまんそこのき

・くまのくくづめ

天漢梶音聞孫星与織女今宵相霜

・ふひげ　為忠

志のびくくさきまをぐらようひげ　その川水

のタぐ水の室

・あくぐ　り系

ぬきたばくくこの里やつげうんくまぐくづの

あうほーのこれ

・使のを　因

東くまぐれ　ぬくくぐぬこよひさく使のを

をくくやまりくん

・あまの川

天漢霧立渡且今日今日吾待君之舟

出為芽霜

・や次の川

安麻泥良須可赤能御代欲里夜渕

能河波奈加尓敞太豆々弁可比多

知蘇泥布利可波之伊吉能牟尓奈

氣加須古良ゑ

重家

・やまのくくう

くくぐくふあつせハうくくやまの川　やまの

くくうもちのくくりく

・くくう寺

法性寺入道前関白太政大臣

わ多れ

こぐ　いでて

くく小舟

久ごゐれ

くくみてくまぐ

沖つ　浪

▲詞花集雑　新院　崇徳院位を於りくくく時海上

船をくくく

来歌

為尹

・天くもりの
久堅の天漢ふ上瀬ふ珠橋渡下瀬ふ
船浮居雨雫而風不吹登毛風吹而
雨不落等物無不濕不息来座常
玉橋渡

冷泉入道右大臣

・雲の山
雲の山いはふせるともせるの川はやせるの
雲のくもり

・うちつ
天漢打橋渡妹之家道不止通時不
待友

紫微院

・やまぶきの
やまぶきの川辺の清もやまぶきの
こがくれぬのり

皷富門院

・かくれぬ
かくれぬのうのはなのかくれぬ
ふかくふくれぬ

後二條院

・ひかれ
ひかれ
ふくれ

▲金葉集冬　冬歌の中に鳥のつくることをよめる

・秋たちてふ山里は秋たちてとはれぬ
山の目をやまぶきの
ものをうとくなれのみ
ものをふるくあるぶつ
せきかりがねの
こゑ四の方を
ちぶ
ちぶ
ちぶ

源兼昌

・あかつきの
あかつきの
あくるを
すまの
関
ちぶ
ちぶ
ちぶ

・うちつ
・かくれ
・ふかく
・つまむ
・ふる
・ちぶ
・ちぶ
・ちぶ

・つまおろしぶね

・ゑみぢのおと

・とわたるあと　上総乳母

・かち　吾瀬子ニ尓袁憑君者天河夜舟漕動梶音所聞

・かい　叫夕零来雨者男星之早傍船之賀伊之散鴨

・ふるのつふ　安伎波疑尓々保敝流和我母奴礼奴等毋伎美我美布祢能都奈之等理

・水うみ　為理

・くくりひの水　大納言範光

・水うけ　天漢水陰草乃金風尓靡見者時者来之　花宴院

・ふるのかわ　左中将秀経

・ふるのつふ

・ふるのかわ　左大臣

・しむらぐき

・うりひく花　言継卿

・うぐひのこ

七月七日ぶのつふのまつる

待賢門院の堀河

ながらへもしむかしをしのぶ
黒髪の
みだれてけさは
物をこそおもへ

▲千載集恋三　不肖のなかこころまよひ

・待賢門院　障子御父八条院大納言公実公白河院御養子鳥羽院皇后東治元年二月御出家久安元年八月崩

・堀河ハ神祇伯顕仲女

後徳大寺大臣

あふぎ出水
くぐるらんの
かきそのらん

▲千載集夏　暁ゆふ恋

・後徳大寺殿　実定公　寿永三年正月内大臣　正二位

・後徳大寺左大臣　実能公　又八大炊御門右大臣　経宗公　母八中納言信忠卿女

・文治二年左大将十月右大臣五年七月左大臣建久二年六月出家五十三

上総乳母

後拾遺

たなばたの　ぬきもてこしの　ぬのなれば
　　たまのをかとも　なりにけるかな

俊成卿

新古

ながつきの　ながめてこしの　舟のうちの　つきはあかしの　あけぬなりけり

為重卿

・うぢの　さとの　秋ぎり　梶の　さとの　秋ぎり　ふるさとの　秋ぎり

言継卿

・つゆ　ぬく　ぬの　毎山家七夕月

・七つ　ぬく　ぬの　言継卿

・秋　さう　衣

棚機之五百機立而織布之秋去衣敷取見

・夜　すり　衣　崇徳院

千載

・め　衣　俊成

捨遺

・なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの

・なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの

▲千載集　憲　ぶいーしゑ

・なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの

・なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの

・又　治部卿　清孝

・道因　本名　八敷頼　後五位下　右馬助　大系圖古今著聞

・この　ぬの　衣　　・後　ぬの　衣

・天の　羽衣　六條院宮内

・みち　ー　　・秋　ぬの　衣

・あく　も　　・夜　ぬの　衣

▲千載集　雜中　述懷　源頼政

・なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの

・なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの　なに　ぬく　ぬの

・父　権中納言　俊忠卿

・公卿補任云　安元二年二月皇太后宮大夫　同二年九月出家　六十二　号釋阿　元久元年晦日薨　七十一

為我登織女之其屋戸尓織白布織
旦兼鴨

大納言忠良

続古今
[illegible]

仙英

[illegible]

仙英

[illegible]

後撰御製　天皇

菱原清輔朝臣

あづまへぞ
まづこのこゝろ
やしのばれむ
なほこゝろふか
くいまこそしる

▲新古今集雑　ぶりしば
家集云三條内大臣のいまだ中納言にて[illegible]

▲千載集恋

[illegible]

後拾遺集小増墨法師

[illegible]

又八俊頼朝臣

俊恵法師

[illegible]

・紅葉のこがれ　後九條内大臣

・静のうがぜ　ちぬ　ふがれもこちぬ　ふがれ　こがれ　ふるやくらん

・くまのまち　兒性法親王

・くまのまち　ふれてこの初ひきくまよ　ふくてゐの　まち　すゝ　も

・いとまち　吾茅意冊穂面今夕毋可天漢原石枕卷

・いとまち　走礼門院右京大夫

・たふがぐ　おいなの枕　ひとえ　ぬ　ぬ　えまふ

・為理卿

・神まち　後京資忠

・この川波　藤原院内

・もち　ふちつも　前参院内

・かざしの　星頭刺玉之蠟燭乱祁良志此河濱

▲千載集憲　有ふ　恵ふ　ふ　ふ　

皇加門院歌尚

あよつるのあしの
うきまの
一ねゆゑ
こもつてや
寒ましぬらん

入道太政大臣

奉議秀經

花ぐもり

つゆのうもれん

幣

天漢瀬毎幣奉情者君平幸座跡

月のあつまち　祝忠文

まつ水つる有のふるちつ咲たるやまひぐ
やてのうせう

遥奠等手抗易寐夜鶏音莫動明者
雖明

あまぐもの　雅昭

まぐめおくりあひのやの手ゝて秋のら
ぶうちちりまり

なぬの秋日　こつ

秋の日のあるあるん久ぐつあまるぎう
ちわうべく

清輔朝臣

千載集意　摂政右大臣の月の歌の新宮の歌なり後拾遺
歌にいるこころをよめり

新古今集意　歌の心は秋の月の山の端にかたぶくを
いとゝ心ぶかくすみまさるなり

皇嘉門院ハ聖子　崇徳院后大治五年二月立后久安六年
二月院号　法性寺殿忠通公之女

別當ハ太皇太后宮亮俊隆　其平親女



公事根源云九月九日ハ菊日なり竹水菊花の宴行なはるゝ也重陽宴とも九月九日ハ九陽のゝびなり九陽の宴ハ昔ハ天子南殿に出御なりて菊酒を給ひ今ハ上達部に菊酒を給ふ　文徳実録云仁寿元年九月九日ハ重陽の節なり　十月の旬の日ハ魚を献ずる日なり

大系圖云御父ハ後白河院御母ハ後三位成子　大納言季成卿女

皇代記云号西條齋院

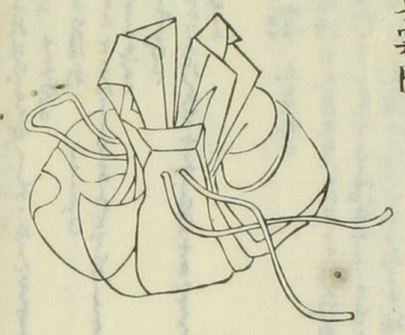
齋院記云天平治元年ト定號大炊御門齋院能和歌出家法名承如法

式子内親王

[illegible]

・續齋階記云汝南桓景遊費長房遊學景年長房謂之曰九月九日汝家當有災厄急宜去令家人各作絳囊盛茱萸以繫臂登高山飲菊酒此禍可消景如言舉家登高還見雞犬牛羊一時暴死長房聞之曰代之矣今世人每至九日登山飲菊酒帶茱萸囊是也

・茱萸囊圖



殿富門院大輔

▲千載集意　[illegible]

・殿富門院ハ後白河院皇女安德後鳥羽二代准母順德院養母　園大納言文治三年六月號殿富門院建保四年四月崩

・太輔祖父ハ後白河院判官代行憲高藤父ハ後五位上信成也　大系圖

・弘仁掃部式云九月九日菊花宴神泉苑殿上供御座及設參議以上座又幄下侍從文人等座

・式部式云九月九日菊花宴應召文人者前二日省簡定文章生并諸司官人堪屬文者造簿預令宜旨當日質明掃部寮儲座如常輔以下筵座計列文人即造名簿御差輔以名簿奉進內侍　儀式云云

・內裏式云九月九日菊花宴式

前一日所司設御座及參議以上并非參議三位以上座於神泉苑乾隅閣　所式中庭東設五位以上幄西設文人幄南若干丈　閣若干丈　式　樂舞其南若干丈設女樂幄其日平旦中務置宣命位於尋常位北一許文內藏寮立文臺於舞臺西北　錦帳皮立臺　式享宴　既而皇帝御乾臨閣諸衛服上儀服內侍賜東櫛　奥大臣皇太子著座及大臣令奥群臣美　謂奥侍　後以上儀　式　御常群臣座定式部立文人參入幄前列立北面東上謝座謝酒著座內

後京極摂政前太政大臣

▲新古今集秋下　正首[illegible]

・[illegible]

・[illegible]

・毛詩云七月在野八月在宇九月在戶十月蟋蟀入我床下

・父ハ後法性寺殿兼實公母ハ從三位藤原秀行女也

・後京極殿良經公元久元年十二月太政大臣同二年四月辭太政大臣建永元年二月薨

藏察賜筆墨硯紙等是女樂頭猶於
東瀧殿盃一献行事舟渡就簡前幄奏
樂訖皇太子避座次簡上群臣下自東階
左近仗南二許丈異位重行西面北上不
外閣者各當幄前立並舞訖授宣命
文文於大臣若中納言以上外記進
見參侍從及文人夾名内侍傳取令
御覽訖大臣喚進宣制參議以上一
人授宣命文復座上下群臣避座如
始宣命大夫下簡就位宣制曰天皇
我詔良麻宣大命乎衆諸聞食止
宣群臣拍唯再拜訖曰今日者九月
九日乃菊花豊樂聞食日乎在故是
以御酒食用惠良伎退為止
常也賜酒帯乃大物賜久宣群臣
拜舞賜禄百姓其文人者後日定奉
更復賜禄或時不必為也

▲系をもやの稜よつてるの

・清水坂の抜草紙にせたはきさいのな
ぎのあいめひのよりけるをとるとて
いるるのあるとてはけくまるせんはいミ
帳とをろうしのをとしのをとちふてさう
方方方まくまるやしのまるのまるの

▲千載集恋　寄石恋

・系のこそ古今ふこちのくはいぼくはあるぼもぼぼのこそ
をさそるぼぼのこそはつぼんぼ袖ちひもものもあくなぎたつる

兼輔

・黄ぎく　・高き

・兼和尚

・一ぎく　乳母

・八重ぎく　師氏

・むらさきの　忠岑

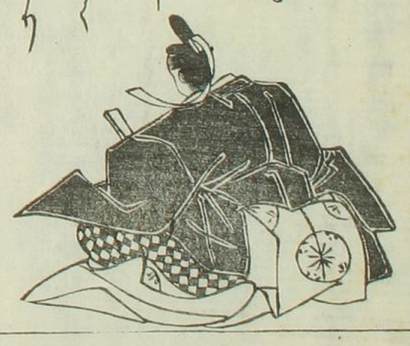
・ぎくの　書經

・菊の露　忠徳院

▲新古今集秋下　摂政の

・新のこころは八月の山の秋をさらにもとめてしらぬ

・雅經卿は兼久二年後三位同十二月参議同三年三月




・まくの葉

・まくの下水　兼輔

・ぎくのわらび　兼輔

・菊の泉

・菊の露

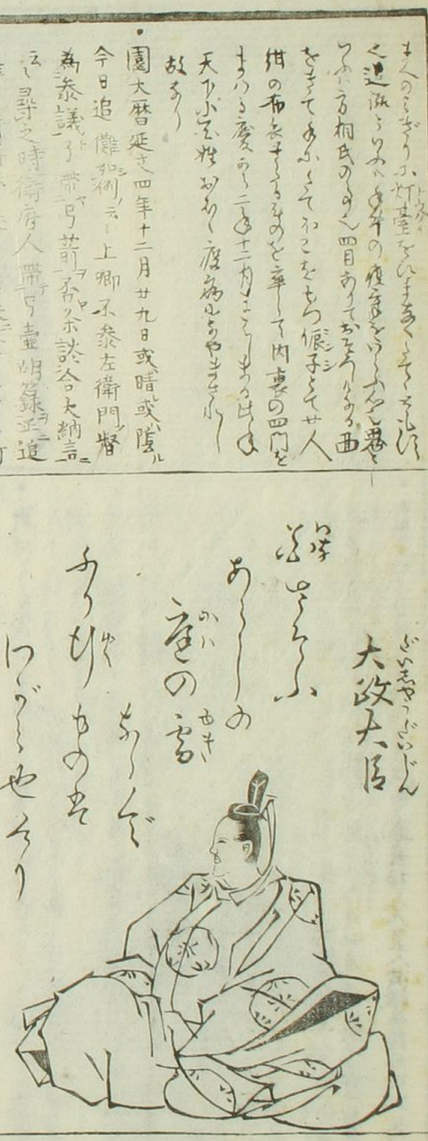
▲千載集雑中　雅經

・新のこころは八月の山の秋をさらにもとめてしらぬ

・法華經製品の書寫是法華經者を當知是人為釈迦牟尼仏

・天皇は副書を

・大僧正始名道快養和元年十月改慈圓嘉禄元九廿五入滅



大政大臣

ふるさとの
あるじの
宴の
ちぐさ
ものも
つづこせり

▲新勅撰集雜　落花をよめる　藤原為家朝臣

ちりぬるかぜ
ちりぬるかぜ
ちりぬるかぜ

衣笠内府

・政事要畧廿五巻小の女房方相氏倀子
簀の圖

・延喜式に倀子八領あり

方相氏

・前一の矢　内六位

・すきかちつ

後二位家隆

▲新勅撰集　寛喜元年女御光明峯寺摂政道家公女今年十一月入内後堀河院
后号藤門院　入内屏風

・新勅撰集ハ大江広元ノ子ニ出家シテ法名覚阿ト号シ鎌倉ニ住ス

・文暦二年九月十日改嘉禎　後二位嘉禎三年四月薨ス八十

・楢の小川ハ現在ノ山城国葛野郡ニアリ

・父ハ士生中納言光隆卿母ハ太皇太后宮亮実兼女

後鳥羽院



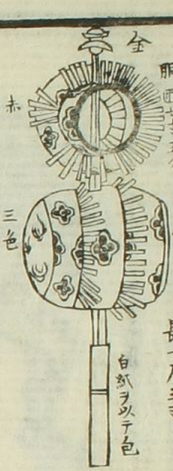
▲續後撰集雜

・新勅撰ハ嵯峨ノ御代ニ成リ続後撰ハ後嵯峨ノ御代ニ成リ

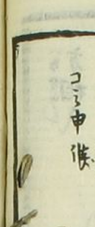
・大御父ハ高倉天皇大御母ハ贈左大臣信隆公女殖子大御諱尊成

・皇代記云承久三年七月八日於鳥羽殿御出家同十三日乙未令
向隠岐国給延應元年二月廿二日於隠岐国崩御年六十五月廿九
日被定顕德院仁治三年七月奉号後鳥羽院

・大和国信貴寺蔵鼓鼓圖




・舞樂道具注文云 振鼓
長サ金物ケンサキマデ二尺五寸桐ノサシワタシ二寸五分半上ノ鼓ノ桐ノ長サ二寸四分半下ノ桐ノ長サ二寸四分半桐中ニテ二寸七分上ノ桐ノ中下ノ鼓ノ桐二寸九分ナリ上ノ釵形敷座ヨリ釵サキマデ二寸四分半鼓サシクシ上ハ長サ六分ノクシ下ノ鼓ノサシ串七分上ニ鼓ハ十六本ノクシ數九十六但シ桐ハ布ヲキセ皆地ニテヌリ金ノウルシハクウスグモ朱エンジコンヤウ、ロクセウ、ニテウゲン彩色ナリ鼓ノ釵ノ、ガキツケ黒ク漆ニテトモエアリ皮ノマハリコンゼウコンケン板ハシタン大ササシ渡シ五分長サ桐ノマハリ一尺二寸一分ヲテンニテ雁サ一雲十二トリ合柄ノ方ヨリトリコミ申候



・新後撰集
・百しきの皇子なをしの女ぶの今だに人の見ぬ花の
さそはれぬ春の山ぶみ
むかしは
ふるの山ぶみ
国へ
まのぶ
ちぶ
・大御父後鳥羽院大御母八條明門院皇子贈左大臣範季公女
大御諱六条成承久三年四月御譲位廿五同七月廿一日壬寅令向
佐渡国給仁治三年於佐渡国崩御年四十六

# 麻生園蔵板書目

古語字類抄
古今事類 文部 歌部 近刻
日本紀竟宴和歌標注
歌仙家集注
散木奇謌集標注
狭衣標注
堤中納言物語注
徴古圖録六卷 巻一上木 此書 文化八年二月三条焼失
縣居翁續萬葉論
比奈風俗 我光 枝大人 家集
縣居翁ゑのこ子へ送る三十六歌仙注増補
年表義園 近刻
古語便覧
對照假字法 折本 上木 山下町萬屋太治右衛門發行
百人一首抄 上木 藏板

萬葉類句 長歌五冊 近刻 短歌五冊 上木 藏板 短歌五句類句副出
古今六帖畧注
清輔朝臣集標注
年中行事歌合注
榮花物語標注
讃岐典侍日記圖解 三卷 近刻
縣居雜録補抄六卷 巻一上木 本石町十軒店英屋平吉發行
古器考増注
ゑのこ子集
信濃国地理雜考
名所便覧 上木
和名便覧
玉加豆良 折本 上木 下谷池之端須原屋伊八發行